

令和4年度第2回牛久市男女共同参画審議会議事概要

《公開》

1. 日時 令和4年10月4日（火）午後2時から午後3時30分まで
2. 場所 保健センター2階研修室
3. (出席者) (会長・副会長他五十音順) (審議員15名のうち10名)
金谷正彦会長、森川志子副会長、飯田昭夫委員、大久保典文委員、大橋澄子委員、
岡見清委員、付月委員、村武修司委員、森口亘子委員、山田俊克委員
(事務局) 小川市民部長、栗山市民部次長兼男女共同参画推進室長、飯村男女共同参画
推進室課長補佐、尾澤男女共同参画推進室担当職員、大山男女共同参画推進室担当職員
4. 議題
 - (1) 牛久市男女共同参画推進基本計画・実施計画（第4次）素案（案）
 - (2) その他
5. 傍聴人の数 1名
6. 審議の内容

- (1) 牛久市男女共同参画推進基本計画・実施計画（第4次）素案（案）

事務局より、第3次計画からの主な変更点や特徴的な点を中心に説明があった。なお実施計画についてはこれからワーキングチームの作業の中で新規事業を追加していく旨、説明があった。

<委員からの審議内容>

【全体について】

- SDGs やダイバーシティといった用語が散見され、わかりにくいと感じる。市民に向けての計画であるならば、わかりやすく書くよう工夫してほしい。
※ 国や県でも使われている用語を使用しています。また、巻末には用語解説を掲載しております。
※ (他委員から) 用語解説に加えて、文中に注記する工夫も一案。
- 全体的に文字が多く読みづらい印象がある。小学生でもわかるものが理想である。読みやすさのために、イラストを加えることや文章を短くすることを検討されたい。
※ ページ数が多くなる範囲で、脚注などを入れて読みやすいものとなるよう検討します。また、作成する基本計画のダイジェスト版は、イラストや図表を多用し視覚的にわかりやすいものとなるように工夫します。
- ダイジェスト版は小学生や外国人にもわかるよう工夫されたい。
- ダイジェスト版はイラストを多用した他市の事例などを参考にされたい。
- ダイジェスト版は外部委託せずに自前で作成するとのことだが、それだと現状と変わらず、分かりづらい資料になってしまう恐れがある。経費はかかるが広い知見を有する外部コンサルタント等の視点を入れて作成するのは如何？
※ダイジェスト版の作成にあたっては、経費をかけない範囲で、できる限りの対応をし、読みやすさ・わかりやすさの追求という点では、広報担当課の知見を得ながら工夫して参ります。
- ダイジェスト版を作成するにとどめず、情報誌やSNS等を活用し、広く発信するこ

とを求めたい。

【内容について】

- 市内事業所へのアンケート調査結果を基本計画に反映させることが望ましい。
※ 第1章「計画策定の基本的な考え方」や第2章「基本計画」に反映させるよう検討します。
- 第3次計画と第4次計画との対応関係は理解したが、その理由を記載し、表現方法を改善することが望ましい。
※ 理由の記載を拡充するとともに、作図にて表現できるよう工夫します。
- 市民意識調査対象については前回の審議会でも提議されたように70歳未満という上限を撤廃することが望ましい。70歳以上でも働く高齢者は沢山いるし、介護に直面する方々の声を聞くこともできる。また、内容を平易にし外国人にも回答できる内容とすることや、子どもの権利条約の観点から18歳未満の声を聞くことも肝要。対象年齢を下げることで、例えば、高校・大学進学に関する男女差の現状を知ることができる。
- 70歳以上に意識調査の対象を広げる件について、自分の周りの高齢者をみても80歳以上は意識改革が難しいと感じている。それら対象者を考慮した質問を設定すると質問数がどんどん増えて回答が大変になる。むしろ小中学生の意識啓発を進めることに注力すべきと思量。
※ 次回の意識調査実施時の検討課題とします。
- 年代によって家事の役割分担の意識が異なる。共働き世帯では男性の家事・育児の参画が進んでいると思われ、これまで実施計画に定めた事業による効果の発現と考えることもできるのではないか。
※ 意識調査報告書には家事の役割分担に関するクロス集計結果を掲載します。また、第4次計画の参考項目として検討します。
- 「実施計画」について、新規事業を記載するよう求める。
※ 今後、ワーキングチーム会議はじめ担当課と検討して参ります。
- 「学校等における男女共同参画の推進」に関して、子どもは男女共同参画についてよく理解していると思量する。調査するのであれば、調査方法は小学校低学年と高学年を分けるなどの工夫は必要になるだろうが、小学生のうちから男女共同参画を意識させることが重要だと考える。
- 教員の負担増には配慮が必要だが、18歳未満の調査では学校を通じて行うことも可能ではないか。
※ 調査の可否や第4次計画の基本目標Ⅰでの対応を含め、担当課とともに検討して参ります。
- 「主な取組 防災意識の高揚と地域防災活動の支援・充実」に関して、もう少し具体的な観点が欲しい。例えば女性の「防災士」の数を増やすとか。避難所運営では女性の視点がとても大事であるので、その記載も求めたい。
※ 担当課と協議し検討します。
- 「実施計画の指標目標」に関して、目標値はいつまでに決めるのか。
※ ワーキングチーム会議を経て、次回審議会には報告します。
- 「実施計画の指標目標」に関して、「地域包括支援センター設置数」のR3基準値が「1箇所」となっているが「2箇所」の誤りではないか。
※ 2箇所が正しいので訂正します。

- 意識の啓発は効果が出にくい側面があるため、事業主や組織の管理職などが、意識的に男女共同参画について社員・職員に声をかけ、啓発し続けることが重要。
- 市の予算に限りがあるのであれば、県のダイバーシティセンター（ぽらりす）の事業なども活用すればよいのではないか。
※ 県とは連携をとっており、市の管理職研修や各種イベントのご案内など支援をいただいています。第4次計画においても引き続き、県と連携しながら進めて参ります。
- 第1章「基本的考え方」は論理的な記述となっているが、第1章で示された課題に対応する第2章の論旨が明確でない。この計画を実施すると、如何なる成果が出るのかといった観点で再考されたい。第4次計画でも事業数が多くなるだろうが、牛久市として取り組む目玉となるような特筆する事業があれば、それを前面に出すといった対応は如何。たとえば「働き方」に注目し、女性が介護や出産を理由にした離職率が高いこと、職場で性差別を受けている方がいること、介護を理由に離職せざるを得ない男性が増えていく可能性があること、長時間労働を是正すること等に対応していくようなことも一案。
※ 論旨の明確化については、検討します。男女共同参画に関する事業が数多く行われている一方で、それらの事業内容が十分に市民に知られていないことを問題点であると認識しており、市民にわかりやすい方法での発信について検討して参ります。目玉として特定の事業を掲げることは想定していませんが、「働き方」についてお示しいただいたことを念頭に、基本計画の中で記載できるよう検討して参ります。
- 「働き方」に関連して、私の職場では女性が8割を占め、男性の育児休業取得者もある等、女性が働きやすい職場環境づくりに努めている。市内にも女性が働きやすい職場づくりを進める事業所があると思量する。男性の育児休業取得者数を数値目標としている点はよい。
※ 第4次計画、基本目標II「あらゆる分野における男女共同参画の推進」で対応できるよう担当課とともに検討して参ります。
- SDGsに対応してジェンダー平等を掲げたことはよい。学校でのジェンダー平等については第4次計画にどのように反映されているか。
※ 基本目標I「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」において対応しています。具体的事業など詳細は担当課とともに検討して参ります。
- 実施計画の具体的事業「外国人と一体となった国際理解活動の促進」とあるが具体的にはどんな内容か。
※ 多様性を認め合うダイバーシティ社会の実現という目標が達成されるよう外国人が担い手となるような活動を想定しており、詳細は検討中です。

(2) その他

事務局より策定スケジュールの変更について報告。第3回審議会の開催日は、欠席の委員の都合も伺った上で決定することとなった。

以上